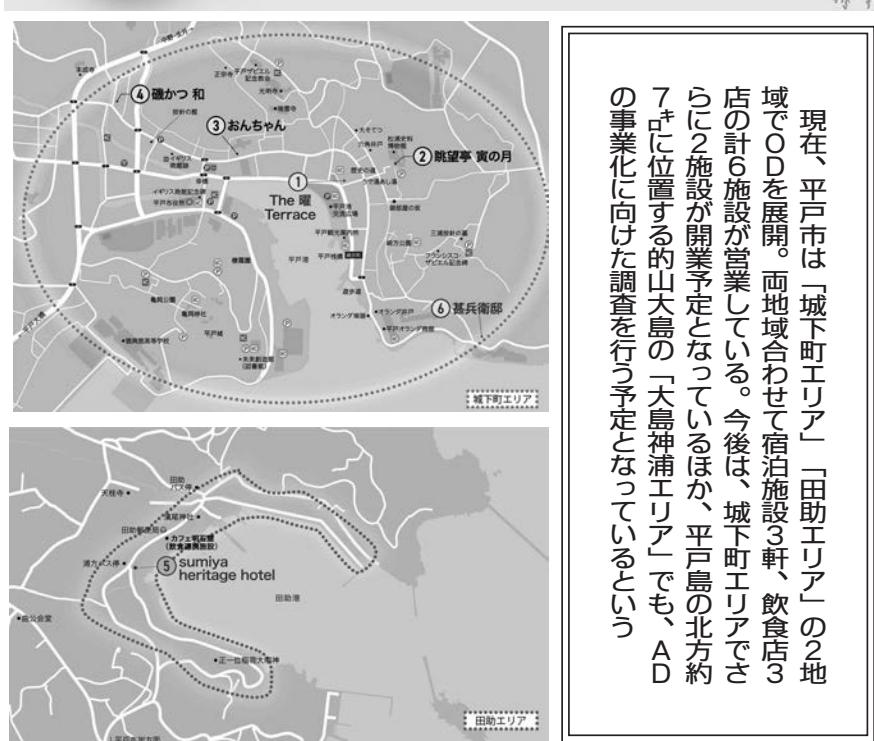
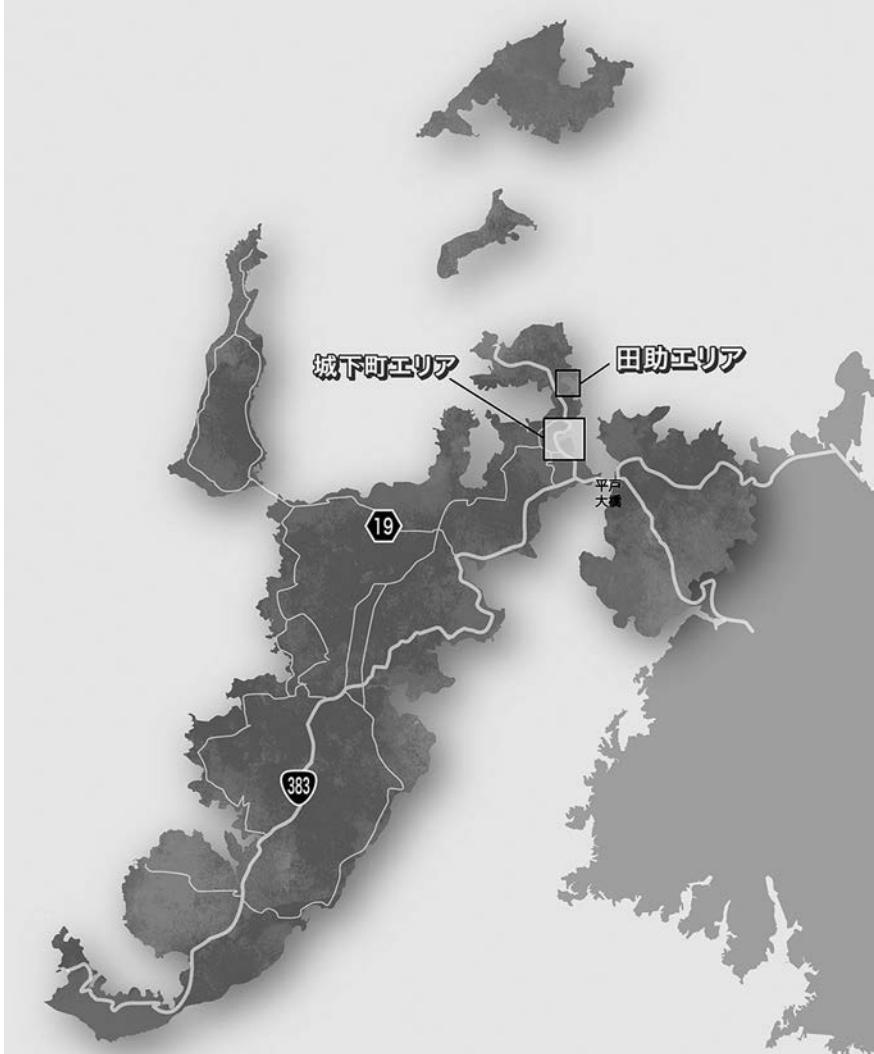


"分散型の宿"アルベルゴ・ディフーズ

地図で見る平戸市のOD

※画像はいずれも平戸市公式サイトから

平戸市内でのODを推進するアドリバ



ADの要件と、ADT認定後の維持・管理

アルベルゴ・ディフーズ(分散型ホテル)の要件

経営形態	ひとつの事業者が一括して経営・管理していること
ホスピタリティのクオリティ	プロフェッショナルで心のこもったサービスであること。(特に宿泊形態において)
建物と地域の規定	既存の建物を再利用したものであること。またそれが以前から暮らしてきた村や町に存在していること
施設	飲食サービスを伴う食事処、レセプション、共同スペース、喫茶やバー・カーネーなどの施設が設けられていること
建物間の距離	隣接は50m以内を目安とする
地域	ありのままの環境があること、直面する現実と、地域の文化が融合していること
環境認定	はっきりとしたアドバタイジングと、提供サービスの質がいつも安定していること
地域性	地域や地元文化と一緒に化した経営であること
連帯感	アルベルゴ・ディフーズとしての誇りと、アルベルゴ・ディフーズ同士の連帯意識を持って活動すること

出典=アルベルゴ・ディフーズインターナショナル極東支社(Adice)

アルベルゴ・ディフーズ(AD)の認証は、上記の10要件を満たす必要がある。ADのさらに広域な概念のオスピタリタ・ディフーズ(OD)は、基本的な仕組みはADと同様だが、範囲が拡大するだけでなく、一つの事業者に限らず分散された地域が一体となり、集落再生を実現したケースが該当する。

そしてAD・ODを計画・推進し、地域の持続・発展を目指す自治体に与えられるのがアルベルゴ・ディフーズタウン(ADT)だ。ADTに認定されると、ADTと提携し、地域事業者とのコミュニケーションに務めることが求められる。ADTへの認定料の納付義務も発生する。

認定後は、3年ごとにADTが認定自治体を訪問するなど、サービスの質に対する視察も強化される。審査で公認のAD・ODがなくなった場合は、ADTとADTの協議によりADTの名称が取り下げられるなど、認定後のAD・ODの維持・管理も厳しい要件が設けられている。



DODと連携協定

認知向上目標

テレワーカー環境も整備へ

認定地域同士で連携協定

移住促進に本腰

官民で協議会も設立

情報発信強化を推進



平戸市の「城下町エリア」にある、レセプション機能を備えた宿泊施設「The Terrace (ザ・テラス)」

空き家の再生で
地域課題を解決

構想開始から5年 観光庁の支援事業も活用 世界初認定を受けるまで

空き家の再生で
地域課題を解決

2地区でOD推進

空き家の再生で
地域課題を解決

観光庁の支援事業も活用 世界初認定を受けるまで

空き家の再生で
地域課題を解決

構想開始から5年 観光庁の支援事業も活用